

キャリア教育のすすめ

次世代の子どもたちにも
勤労観と職業観を！

人は、仕事をして生活しています。また、仕事を通して、自分の可能性を高めたり、社会に貢献したり、夢を実現したりします。ところが現在、産業構造の変化や、雇用形態が多様化する中で、自らの個性を生かし、目標の達成に向けて生活することが困難な若者が増えています。

子どもたちや若者が働くことの大切さを感じ、自分の将来を主体的に考えることができるよう、就学前から大学などに至るまでのそれぞれの発育・発達段階に応じ、働くことの楽しさ、充実感、苦しさを乗り越えた時の喜びなどを学びとる取り組みが求められています。

そこで県では、勤労の尊さ、職業や進路に関する意識づくりとともに、ものづくりや生産の喜び、社会奉仕などの体験を通して、勤労観・職業観をはぐくむ「キャリア教育」を、産・学・行政そして地域の方々と連携して進めています。

仕事への思いや経験を伝えよう

宇城地域では、保育所・幼稚園から高校まで連携して取り組んでいます。

松橋中学校では、保護者や地域の職場を訪問してインタビューをしたり、職場体験を行ったりしています。その結果、仕事への関心を高め、将来の目標をしっかりと抱くようになった生徒が増えています。この経験は、高校でのインターンシップ(就業体験)的に取り組もうとする態度につながっているようです。また、年間を通じて「あいさつ」に力を入れ、生徒会を中心に取り組んでいます。保護者の皆さんも、コミュニケーション能力向上については関心が高く、家庭や地域でも子どもたちがいさつやマナー、思いやりの心などをはぐくむために協力をいただいています。



消防署での職場体験

勤労観・職業観は、一緒に生活身近な大人の生き方を見せとで育てられると思います。ここでは、仕事での苦勞や喜び、がいや感動など、保護者自経験や思いをたくさん語っていただきたいと思ひます。



中学校

理解を深め、自分の将来を考える力を養うことが大切です。



小学校

学ぶ意欲を高め、身の回りの活動などで、自分の役割を自覚し、責任を果たすことが大切です。



保育所・幼稚園

遊びや体験活動を通じて仕事への夢やあこがれをはぐくむことが大切です。

勤 労 観 の 形 成

産・事務所、関係機関・団体、行政

何でも興味を持って真剣に取り組んで

どの生徒さんも素直ではきはきとして、一生懸命働いてくれました。仕事は、掃除や道具の運搬など軽作業が中心でしたが、職人たちの仕事を見て、建設現場での仕事内容は大体理解してもらえたのではないのでしょうか。



株式会社 竹内工務店 工事部 たかた しんじ 高田 真二さん

高校生の中には、まだ将来について迷っている人も多いと思いますが、素直で純粋な今の気持ちを忘れずに、いろんなことに興味を持って一生懸命に取り組んでほしいですね。



実習に励む生徒たち

「ごっこ遊び」から始めよう

上天草市の阿村小校区では、花の栽培やおもちゃ作りなどを通して、園児と児童の交流を重ねながら勤労観・職業観をはぐくむ取り組みを進めています。一緒に活動する中で、保育園児は小学生のまねをしたり、やり方を教わったりしながら、いろいろなことを身に付けていきます。幼いころから異年齢の活動を充実させるのは、少子化が進む現在、社会性やコミュニケーション能力を育てるためにとても大切だと思います。今後は、このような取り組みを上天草市全体に広げる予定です。



上天草市教育委員会 学務課 教育審議員 たかき まさみつ 高木 政光さん

また、勤労観・職業観の基礎になるものの一つとして、掃除に力を入れようと計画しています。幼児は、「ごっこ遊び」が大好きです。大人が掃除するのを見るとまねしようとしています。そのタイミングをとらえて一緒にさせてみるのです。上天草市では、散歩の時のごみ拾いや園庭の掃除などを、園児が先生と一緒に頑張っている保育園もあります。家庭でも、簡単な手伝いを続けている子どもがたくさんいます。身近な大人が褒めたり励ましたりしながら、一緒に楽しく取り組むことで、働くことに対する良いイメージを膨らますことができるのです。それは、生涯を通じて大事な財産となるものです。小学校では、掃除の時間、片付けまでしっかり取り組み、高学年では、自分たちで最終確認までできるようになることを目指しています。



おもちゃ作りを楽しむ保育園児と小学生

このような経験の上に、職業見学や施設訪問、職場体験などを積み重ね、勤労観・職業観をはぐくんでいきます。